

原子力災害支援保健チーム (NuHAT) の紹介

堀田 昇吾 (Horita Shogo)

草間 朋子 (Kusama Tomoko)

1. はじめに

(一社)日本放射線看護学会の協力を得て、放射線・原子力災害の発生直後から復興期に至るまでの長期間にわたる住民に対する放射線リスクマネジメントを担う看護職を構成メンバーとした「原子力災害支援保健チーム；Nuclear disaster Health Assistance Team (以下、NuHATという)」の構築を目指して取り組んでいる。

放射線に関する専門性の高い知識・技術を習得した放射線看護専門看護師（以下放射線看護 CNS という。CNS：Certified Nurse Specialist）及び大学院修士課程で放射線教育を受けた保健師、助産師が、原子力防災において組織的に活動できる場を作り、看護職として原子力防災に貢献していきたいと考えたことが、NuHAT を構想するきっかけである¹⁾。

看護職特に保健師は、地域診断、地区踏査、家庭訪問等の保健活動を通して住民の健康状態、地域の特性を把握・理解した医療保健職として、地域住民にとって最も身近な存在であることを自認して、地域住民の健康保持・増進に関わる様々な保健活動を日常的に行ってきた。しかし、看護職自身の原子力・原子力災害等への関心・認識が低かったことや原子力・放射線に関する知識・技術が不足していたこと等から、2011年の東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所の事故（以下、F1事故という）では住民とのコミュニケーションを通じた放射線リスクの視点からの支援ができなかった。そこで、F1事故を契機に、日本放射線看護学会が設置され、2015年には看護学モデルコアカリキュラム（看護の基礎教育）の中に、「放射線」の科目を取り入れることができ、更に、2015年から弘前大学、長崎

大学、鹿児島大学の大学院修士課程において、放射線に関する専門性の高い知識・技術を習得した放射線看護 CNS の養成教育を開始、2022年放射線看護 CNS が誕生した。大学院修士課程で取得した放射線に関する専門性の高い知識・技術を原子力防災対策に還元したいと考えた。

2. NuHAT の役割

NuHAT は、住民に対する放射線リスクマネジメントを行うことを目標としたチームである。主に大規模災害発生直後（48～72時間）の住民に対する医療を提供する DMAT²⁾ や生活支援を行う災害支援ナースは、既に存在し³⁾、数多くの成果を上げている。また、放射線・原子力事故時の緊急被ばく医療の提供体制も整備されつつある。しかし、原子力災害発生後から中長期にわたり、住民に対する放射線リスクマネジメントに着目し、住民と向き合っ住民の不安や相談等に対応する医療保健チームは、国際的にも未だ存在していない。F1事故時には、住民の放射線の健康影響・リスクに関する不安等に対応するために、行政や多くの専門家により放射線リスクについての説明が繰り返し行われてきたが、住民が、「科学としての放射線リスク」を理解し納得できる段階までには至っておらず、行政・専門家と住民との間に生じた放射線影響・リスクに関する溝は、現在も続いている。地域住民にとって心理的にも最も身近な存在である看護職が、その一翼を担っていくことを意図し、NuHAT を構築することとした。具体的には、平時は医療施設で勤務すると共に、原子力災害発生時に向けた訓練や地域の原子力防災訓練へ参加し、発災時には、現地に赴いて活動する。

3. NuHAT の構成メンバー

NuHAT の主たる構成メンバーとして放射線看護 CNS を考えている。放射線看護 CNS は、大学院修士課程において、放射線に特化した約 30 単位の科目を修了した看護師である¹⁾。放射線リスクマネジメントでは、多様な価値観を持つ住民との対話を中心とした地道な活動が求められる。大学院修士課程で習得した放射線に関する専門的な知識・技術と看護職の持つコミュニケーションスキルや住民との信頼関係等を活用し、「科学としての放射線リスク」を、地域住民の「ところに届ける」ことができるものと考えている。

放射線看護 CNS 養成課程を修了した 35 名を対象に NuHAT 構成メンバーとしての参加に関する意向調査を行った結果、89% が積極的な「参加」の意思を示し、残りの 11% も職場の了解が得られた場合には「参加」と回答した。更に、NuHAT のメンバーとしての参加予定者を対象にした 1 日あるいは 2 日間の放射線リスクマネジメント研修も既に実施し、参加者から研修の効果や有用性についての評価を得ている。住民に対する放射線リスクマネジメントは、様々な専門家によって、それぞれの専門性を尊重し、お互いの連携・協働のもとで「チーム」として行われる。看護職は「チーム医療のキーパーソン」として認知されており⁴⁾、放射線リスクマネジメントにおいても関係者間の調整能力を活用することができると思う。

4. おわりに

NuHAT 構築に向けた検討の過程で、原子力関係者や原発立地県の行政担当者を対象にインタビュー調査を行った。インタビューの過程で聞かれた、「看護職が原子力防災に関わることの視点は今まで全くなかった」の発言に代表されるように、原子力領域で看護職が活動することに対する関心・認識を持つ

ている放射線・原子力関係者は、ほとんどいないのが現状である。地域での学習会等に参加する機会を得て地域住民や行政関係者等に NuHAT のプレゼンスを理解してもらうことが、NuHAT 活動のスタートと考えている。

本研究の調査は、東京医療保健大学ヒトに関する研究倫理審査委員会の承認を得て実施した（承認番号：教 33-3B）。

NuHAT の検討は、原子力規制庁「令和 3 年度放射線対策委託費（放射線安全規制研究戦略的推進事業費）放射線安全規制研究推進事業」（JPJ 007057）の研究助成を受けて実施した。

〈研究グループメンバー（五十音順）〉

明石 眞言（東京医療保健大学）、赤羽 恵一（量子科学技術研究開発機構）、太田 勝正（東都大学）、小嶋 光明（大分県立看護科学大学）、甲斐 倫明（日本文理大学）、加藤 知子（東邦大学）、草間 朋子（東京医療保健大学）、佐藤 潤（元東京医療保健大学）、野戸 結花（弘前大学）、堀田 昇吾（東京医療保健大学）、吉田 浩二（長崎大学）

参考文献

- 1) 明石眞言, 他.: 令和 3 年度放射線対策委託費 看護職を活用した住民に対する放射線リスクマネジメントの推進—原子力災害支援保健チーム (NuHAT) の実現を目指して—報告書: <https://www.nra.go.jp/data/000403596.pdf>. (2023 年 4 月 17 日)
- 2) 独立行政法人国立病院機構 DMAT 事務局, 日本 DMAT 活動要領: <http://www.dmat.jp/dmat/katsudoyo-ryo.pdf> (2023 年 4 月 17 日)
- 3) 災害支援ナースの活動: <https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/reconstruction/shiennurse/index.html> (2023 年 4 月 17 日)
- 4) チーム医療の推進に関する検討会報告書: <https://www.mhlw.go.jp/shingi/2010/03/dl/s0319-9a.pdf> (2023 年 4 月 17 日)

(東京医療保健大学)